

- 風は西にそれる(この場合ヌーリは、地上風よりも前に変化する)。(O)
- ⑩ ヌーリ雲、棒のごとく見ゆるは暴風の前兆。(O)
- ⑪ 上層雲と下層雲が共に走る時は暴風の前知らせ。(O)
- ⑫ ガサムネ雲(巻雲)の現るは大風の兆。(Y)
- ⑬ カジナ(風の根、すなわち風の吹いてくる方向の地平線から天頂の方へのびる光のすじ)が現れると、台風が発生しており、三、四日後に接近することがある。(O)
- ⑭ ガチャネーが現れば暴風。(O)
- ⑮ 巻雲、巻層雲が現れるのは大風の兆。(Y)

## “Tropical Micro-Meteorology and Air Pollution”に関する 国際研究集会(International Conference)のお知らせ

上記の国際集会在下記のとおり開催されます。

開催日 1988年2月15～19日

開催地 New Delhi, India

集会の目的は、開発途上国において開発に伴う各種の災害、被害が発生しているため、特に大気汚染を中心として今後の災害、被害の発生を防止する手段、およびすでに災害が明らかな地域においてその被害を軽減する手段を勧告するための知識につき討議することになってい

### 議 題

- (1) 人工過密地における事故による多量の有毒物放出の対策
- (2) バイオマス燃焼による煙、塵、および風による土砂の舞い上がりを含む都市、非都市域における小さな分散した源と巨大工業源の組み合わせた汚染のモデル化およびモニタリング
- (3) 将来予想される代替エネルギーの利用増大および燃焼効率の改善が熱帯域の大気汚染に及ぼす効果

(4) 陸地および海洋上の熱帯境界層の特性

(a) 境界層の力学

(b) 観測

発表希望者は1987年8月15日までに200～400字の要旨を下記宛に御送付下さい。

Professor M.P. Singh,

Head, Centre for Atmospheric Sciences,

Indian Institute of Technology,

Hauz, Khas, New Delhi-110016, India

国際プログラム委員会では要旨に基づき口頭、ポスターいずれかの発表を決定します。口頭発表者には更に要旨集のための2ページの用紙を送付し、1987年12月15日までに原稿とともに New Delhi に送ることになっています。

なお原稿は審査後 Atmospheric Environment に掲載されることになっています。

詳細は国立公害研究所大喜多敏一までお問い合わせ下さい。



## 極東域のモンスーンに関する研究会

1986年、日中二カ国による第1回の“極東域のモンスーンに関する研究集会”が東大海洋研で開かれたが、第2回目の会議が、中国四川省成都でこの3月30日～4月

4日にわたって開かれる。日本側の参加者は、浅井・住(東大)、吉野(筑波)、岩嶋(京大)、加藤(名大)、村上・新田(気研)の7名である。